

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201484		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	グループホームケアクオリティアンダンテ		
所在地	静岡県静岡市葵区沓谷1-12-11		
自己評価作成日	令和元年 8月 20日	評価結果市町村受理日	令和元年 11月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和元年 9月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心・安全・安住の我が家」の事業所理念を念頭に、利用者様の思いに耳を傾け、ゆったり関わるように努めています。地域との交流も大切にし利用者様が地域の一人として生きがいのある生活を支援しています。

そして、ケアプランに沿ったケアが出来るように、職員は利用者の要望などを情報収集し共有することで個々に合った支援を行っています。

毎月の行事は季節に添った計画を立て実施し、リビング壁の装飾は利用者と共に折り紙や貼り絵などの工作で、季節感を感じていただけるものにしていきます。

また、協力医療機関との連携で重度化介護も行い、住み慣れた街でその人らしく最後まで生活していた

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の環境に恵まれた事業所で、日常的に散歩が行われている。季節の花見やいちご・ブドウ狩り、紅葉見物などの遠足、また好きな物を食べに行く個別外出などの様々なイベントが計画されており、外出を積極的に行う姿勢が伺える。昨年10月に交代したホーム長のもと、職員同士が意見を言い合える環境や休憩を取ることができるシフトの工夫、配置職員の増員などの改革により、働きやすく風通しがよい職場作りが実現されている。リビングからは笑い声が絶えない。理念を念頭に課題に取り組んでおり、より良い地域との関係作りを模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に貼り、申し送り時に唱和を行い共有、実践につなげている。	理念は掲示と唱和を行っている。目指す事業所の方向については、新人職員には入職時のオリエンテーションで既存職員にはカンファレンスにおいてホーム長から具体的な実例を挙げて説明することで意識化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年5月に事業所で地域交流祭を開催し地域の方々に来ていただき関心を持っていただくよう努めている。	散歩や道路清掃時に近隣の方と積極的に挨拶を交わしている。また、今年で5年目になる地域交流祭のチラシは、町内会長の協力を得て回覧や配布をしている。ホームを開放して地域の方による惣菜や作品、バザー販売等多彩な模擬店を出店している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症よろず相談の看板を掲げ、認知症を持つご家族がいつでも相談に来られるような取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括はじめ町内会長や民生委員への報告や情報交換を行っている。	地域の代表者や家族に参加の声掛けを行っているが参加率が低く、検討事項となっている。会議では、ホームにあるAEDを使用した研修会を開催するなど、地域に向けて開放されたホームにするための意見が出ている。	地域密着型サービスとして開かれたサービスを提供するため、運営推進会議の目的に合致した進行ができるよう、地域の代表者や家族の参加を求める工夫をすることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会の社会資源を利用し、介護相談員の訪問を利用している。市への提出書類は直接持参しコミュニケーションを図り協力関係を築くように努めている。	市への提出物は、直接窓口で持参して協力関係を築くように取り組んでいる。法的な疑問は市に訪問した際に質問して解消するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての職員の意識も高く3か月ごとに振り返り、アンケートを実施している。カンファレンスや社内研修などで学ぶ機会を設けている。	徘徊など困難なケースにはカンファレンスで介護方法を工夫し、身体拘束を行わない方法を模索している。スピーチロックに関する反省から職員間で注意し合い、さらにはホーム長が個別面談を行うことで無くす努力を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、研修を実施し職員の意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修などで知識を広げ支援の必要性を理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書・利用契約書を説明し改定時には同意を得て十分理解して頂き署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の介護相談員の利用をして、利用者様の意見等があった際にはその都度対応し改善に努めている。ご家族には面会時やケアプラン説明時に、意見の聞き取りを行っている。	日々の生活の中で入居者の声を聞き取っている。介護相談員の訪問時に意見要望が表せるように配慮している。家族の意見は来所時やケアプラン説明時に聞き取りを行っている。要望により、夜間帯の面会時間は融通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する会議等で、意見や提案など聞く機会を設けている。事業者内で実行できることは早期に改善しているが、検討課題については本先に報告し管理者会議等で取り上げて改善に努めている。	職員意見は日常的にホーム長に伝えられている。毎月行う会議で職員から「休憩がしっかりと取れる職場環境を作りたい」との意見があり、管理者会議でアドバイスを受けながらシフトを工夫して実現されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得祝い金や手当があり、研修費用などは会社負担や補助もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるようにワークスケジュールを組みスキルアップの機会を持ってもらうよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や委員会、研修を通して他事業所との交流を図れるようにしている。また、行事等は相互間で協力し合いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の生活歴を把握し、馴染みの関係作りに努めコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時は環境に配慮し、ご家族の話聞き質問や不安なことに丁寧に応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランを作成し、ご家族の依頼を取り入れ内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、食器拭き、掃除など出来ることは行っていたり、出来ないことは一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等には、ご家族にも参加していただけるように心がけている。また、何かあった時はその都度連絡し必要な協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会社の元同僚やご近所の方などが遊びに来てくださった際は、自室でゆっくりくつろいでいただけるように配慮している。また、近隣の方が傾聴ボランティアとして週2回訪問して下さる。	入居者の希望と家族の協力により、馴染みの方の訪問が実現したケースがユニット全体で数回ある。来訪時に椅子やお茶を用意し、自室やホールなどの過ごしやすい場所でゆったりと会話ができる環境となるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で席を決めている。レクレーションやお手伝いの中で職員が橋渡しをして関りを持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族の相談に乗り不安なく過ごせるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人やご家族の希望や意向を確認し、把握に努めている。 また、支援経過記録やミニカンファ等で情報共有に努めている。	入居時に本人及び家族の意向を聞き取り、入居後は各職員が聞き取っている。ケース記録や経過記録に内容を記録し、共有を図っている。定期または随時開催されるカンファレンスで実現に向けた検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話から何気なく聞き出したり家族から聞いたことをプランに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックを行い状態の変化に気付けるように記録している。 また、利用者一人ひとりの生活リズムを理解しており、全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメント・モニタリングを行い、カンファレンス時に皆で確認している。ご本人やご家族の意見を反映させている。	入居者ごと担当が状態を把握し、その情報を基に介護計画を作成している。カンファレンスで職員全体の意見や工夫を話し合い、介護に反映させている。担当者以外でも利用者や家族から随時聞き取り、申し送り表で共有されている。モニタリングも同じ過程で	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・排泄表・食事や入浴等の記録の記載、申し送りで情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望があれば、個別に外食支援も行っている。 毎月、訪問美容などを利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の行事には出来るだけ利用者様にも参加してもらえるように努めている。近隣のスーパーや薬局に買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療所との連携により、月2回の定期往診と緊急時の対応が24時間受けられるようになってきている。	訪問診療所を協力医とするが、他の医師を主治医として選択することも可能である。この場合は家族が通院を行う事を原則とし、入居中の様子はホームが報告書を作成して情報の連携を行っている。また、必要に応じて職員が立ち会う事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週1回の医療連携により、情報共有が図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供したり病院へ出向き関係者に様子を伺い、退院時にも情報提供書を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針は入居時に説明を行っており、実際の段階ではご家族の意向を基に看護師や医師と情報共有を行い取り組む姿勢でいる。	看取りは行う方針で、今年度は7名ほどのケースがある。研修を年1回開催し、カンファレンスでケース毎に方針と対応の共有を行っている。協力医による24時間対応に加え、契約訪問看護師による医療的なケアを実施している。看取り後は振り返りによる総括と職員の心のケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、サポートマニュアルがあり、目を通し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。	防災委員が訓練を企画し、地震想定での避難訓練や通報訓練を実施している。訓練により、2階に居住する歩行困難な入居者の避難方法についての課題が明確になっている。備蓄は水や食料が3日分用意されている。	災害対策では地域との連携が不可欠である。このため、地域と連携を図ることができる関係を築くための取り組みに今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士注意し合ったり、研修実施により職員の意識向上に努めている。	居室やトイレはドアとカーテンの二重方式で丸見えを防いでいる。不適切な言動がある際には職員同士で注意し合い、日々の申し送りでも共有されている。入居者の情報を申し送る際には、他の利用者に情報が漏れないように、名前を暗号に変えるなどの工夫を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉、声掛けの仕方によりご本人様の意思を汲み取るような努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理のない生活を送っていただくよう本人の生活基盤を大切に、その中での必要性に応じたケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の服の選択はなるべく職員と一緒に、本人を選んでいただき訪問美容を月一回利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を職員が把握し、時にはリクエストを募り応えるようにしている。また、利用者様に片付けを手伝ってもらい役割を持っていただき活躍の場を設けている。	食事はキザミ食やミキサー食の対応が可能である。入居者のリクエストは職員が聞き取り、申し送りでも共有を図っている。各階でメニューが異なり、季節の食材を取り入れながらそれぞれの希望に合わせた食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はその都度チェックしご自身で召し上がれない方には介助で召し上がっていただくよう努めている。また、お一人おひとりの状態に合わせた食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導し口腔ケアをしていただき、一人ひとりに合わせた支援をしている。また、夜間は義歯をお預かりし消毒、除菌し清潔を保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を活用し、ご自分で出来ない方は時間で誘導している。本人に合ったリハビリやパットを検討し、出来ないところだけを支援するようにしている。	排泄パターンを把握し、できるだけ自立への移行を目指し見守っている。誘導が必要な入居者には、把握したパターンに沿って自然な声掛けを工夫している。リハビリパンツの使用者が多いが、布パンツを使用する人もいる。夜間はポータブルトイレの利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、乳製品や食物繊維を多く摂取できるように提供している。便秘のある方には腹部マッサージを行ったり、個別に乳飲料を用意し提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴がお好きな利用者様にはゆっくり入っていたくように心掛けている。拒否のある方は声掛けの工夫や職員を交代するなどして対応している。	1日に3～4名が9時から15時の間に入浴している。原則は週2回としているが、それ以上の入浴希望にも対応できている。ゆったりと入浴できるように、入浴剤や音楽を流す等の工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はゆっくり休んでいただけるよう日中はなるべく活動していただくように努めている。個々の状況に合わせて傾眠の強い方にはお部屋で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はファイルで保管し職員がいつでも確認できるようにしている。薬の変更時は申し送りし申し送りノートを活用し職員が把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴から得意な分野での役割を持っていただき、感謝の言葉をかけている。外食や散歩などで気分転換をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日には近所に散歩に出かけたり、買い物・ドライブ・外食等、ご本人からの希望があれば職員と共に出かけられるよう支援している。	近隣に木立の丘と戦没者墓苑がある、緑豊かで景観が優しい中での散歩は、本人の希望や体力に合わせて週1回～毎日行われている。また買い物への同行や外食等、個人や少数の外出も実施している。桜見物や紅葉見物、苺狩りやぶどう狩りなど、年4回の外出は季節を感じられるイベントをしてい	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	バッグの中に財布が入っているのを確認し、安心されているが、お金は足りているのか？と心配されていることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときには掛けられるように支援している。手紙を書くことはできないが、友人や親戚などから手紙が届くことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者で作った壁紙や作品を装飾し季節感を感じていただけるよう工夫している。また、室温や明るさなどに配慮し、居心地よく過ごせるように努めている。	月毎に装飾を担当する職員が変わり、入居者と共に様々な工夫を凝らしている。調査当日は紅葉やブドウを模した季節感ある手作りの装飾がされていた。掃除は職員が毎日行い、感染症対策として1年を通して次亜塩素酸の消毒を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間ではテレビを観ながら馴染みの利用者様たちが感想を言い合ったり、自室で過ごしたい方は自室で自由に過ごしていただくようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族写真を飾ったり、馴染みのあるものを置いて居心地の良い空間づくりを工夫している。	使い慣れたマットと布団を持ち込んでいる。介護用ベッドやポータブルトイレなどは必要に応じてレンタルや購入を紹介している。家族写真や位牌など、馴染みの物を配置している部屋が確認できた。清掃は週2回でシーツ交換は週1回、職員が実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレと分かる表示は、身長なども考慮し利用者の目線に合った場所に貼っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201484		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	グループホームケアクオリティアンダンテ		
所在地	静岡県静岡市葵区沓谷1-12-11		
自己評価作成日	令和元年 8月 20日	評価結果市町村受理日	令和元年 11月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和元年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心・安全・安住の我が家」の事業所理念を念頭に、利用者様の思いに耳を傾け、ゆったり関わるように努めています。地域との交流も大切に利用者様が地域の一人として生きがいのある生活を支援しています。

そして、ケアプランに沿ったケアが出来るように、職員は利用者の要望などを情報収集し共有することで個々に合った支援を行っています。

毎月の行事は季節に添った計画を立て実施し、リビング壁の装飾は利用者と共に折り紙や貼り絵などの工作で、季節感を感じていただけるものになっています。

また、協力医療機関との連携で重度化介護も行い、住み慣れた街でその人らしく最後まで生活していた

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出を積極的に行う姿勢が伺えます、ホーム近隣の環境に恵まれており散歩が日常的に毎日行われている。また季節の花見やいちご狩り、ブドウ狩り、紅葉見物などの遠足、好きなものを食べに行く個別外出など様々なイベントが計画されている。

昨年10月に交代したホーム長のもと職員同士が意見を言い合える環境や、休憩を取ることが出来るシフトの工夫、配置職員の増員などの改革により、働きやすい風通しがよい職場作りが実現されている。リビングは笑い声が絶えない。

理念を念頭に課題に取り組んでおりより良い地域との関係作りを模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社・事業所理念を理解し事務所・居間に貼り申し送りの際、唱和を行い共有に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の日常生活の中での地域近隣の方々への挨拶をはじめ、毎年行う地域交流祭にて利用者と地域と交流する機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症よろず相談所の看板を掲げ同じ悩みを持つ家族の悩みをいつでも聞く取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月毎、開催される運営推進会議において、地域包括、自治会、民生委員への報告や情報交換を行いサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会資源を利用、介護相談員の訪問を活用し提出物などの書類は市町村担当者と連携を取るために足を運ぶように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束〇宣言を掲げ職員全員が研修、実践アンケートなどで振り返り、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記内容と同様に研修、アンケートによる振り返りにて虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修等において、成年後見制度について学ぶ機会を持ち、現入居者様と話し合い活用、支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しての説明などは管理者が行い、内容に関して十分に説明し納得していたき、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時、ケアプラン説明時に利用者ご家族に意見を聞き、カンファレンス、運営推進会議、家族面会で発信し運営に反映されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されるユニット会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい、各自向上心が持てる職場環境整備をするために常に職員の声に耳を傾けている。社内コンテストでの入賞者の報奨金や職員紹介制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場で必要と思われる研修を確認しながら、内外の研修が受けやすい環境をつくり働きながら現場で活かせるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流を行事などの機会を利用し、ネットワーク作りにつながるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情を観察し、話を傾聴・受容・共感に努め、ご本人の不安軽減に繋げ、職員間の情報共有を徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には日常の生活状況を伝えながら、ご家族の不安・要望の把握に努め、月次報告書により定期的に様子を伝えて環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接やプラン説明時に本人や家族などの求めているサービスを見極め、ケアに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話や家事を共に行う中で、家族あるいは仲間のような安心していただける環境作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人、御家族の双方から互いの話を聞き、相互の絆を尊重しながら接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には今まで使用していた馴染み深いものをお持ち頂き、家族・知人の面会等で関係の継続を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	催しやレクリエーションを通じコミュニケーションの場を提供したり、会話の橋渡しをし孤立することのないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、地域交流祭のご案内をしたり、ホームを訪ねて下さったこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング、アセスメントをカンファレンスで実施し、その人なりの生活とは何か？を話し合い利用者様本位のケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接にて御家族・御本人から生活歴の聞き取りをし、サービス内容に練りこんでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態に合わせ何が出来、何が大切かを把握し実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで課題や方向性を話し合い、現状に即したプラン作成に取り組み、スタッフ全員で共有しケアに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録時に記載したり、申し送りなどで利用者一人ひとりの情報を共有、周知徹底しケアに取り組みながら随時見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応出来るよう、関係者、職員間でその都度話し合いの場を設けたり、必要に応じてDr・御家族・管理者での会議を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアグループにお越し頂いたり、散歩時にご近所の方と挨拶を交わし触れ合っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診に加え、急変時の相談や受診、往診が受けられる。病状に応じて管理者・御家族への説明等、適切な医療連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師に来所していただき、現状を報告し相談、指示を受け、利用者様が安心して生活できる支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活歴、個々の特徴などを伝え、青浮田医院に向けて看護師や相談員と連携を取るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期にはマニュアルに沿って対応し、利用者様・御家族の不安軽減に努め、Dr・Nsとの連携を図り職員間で情報共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを、度々カンファレンス時に申し合わせている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施し、誘導・通報・炊き出し等を訓練している。運営推進会議等で民生委員や地域包括の方からご意見を頂き、協力体制の構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として常に尊重し、丁寧な言葉使い・対応を心掛けていている。特に、排泄介助時は配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情観察や声掛けに配慮し、思いや希望を表現しやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のケアに取り組んでいる。利用者様が散歩や買い物に行きたい際は、出来る限りご希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時には好みの服を選んでいただき、声掛けを行いながら髪を整える支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の選定には利用者様の好みや季節感を考慮している。特に片付けを中心に職員と共に出来る範囲で行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立を心掛け、特に水分においては必要量を確保できるように個人の状態、習慣も考慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様の状態に合わせた声掛け・一部介助・全介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてパターンを把握し、声掛け・誘導・も守り・介助にてトイレでの自立に向けて排泄支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に注意し、職7持つ繊維を多く摂れるような食事を工夫して提供している。薬で排便の調整をされている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェック等で体調の管理を行い、その時の状態に合わせて、2~3日に一度の割合で入浴していただき、シャワー浴・足浴を行う事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて日中でも自室にて休んで頂いたり、夜間帯は質の良い睡眠が取れるように日中の過ごし方を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名、効能、副作用などの把握に努め、変更時には他職員との情報の共有を図り誤薬の無いように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日頃の対応の中で、楽しみや出来ることをみつけ提供の場を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・季節の花見などの外出支援を行っている。日常的にも散歩や買い物に出かけられるときには出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人でお金の管理をされている方は、ほぼいらっしゃらないが、地域交流祭等に自身で支払いの場を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人から希望があれば電話や手紙の支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下は季節毎に装飾を替え、温度調節、照明などにも気を配り環境整備に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブルや椅子の配置を考慮している。また、馴染みの者同士で会話ができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使用していた馴染み深い物をお持ち頂き、使い慣れた道具で安心して生活して頂く工夫をし、レクなどで制作した作品を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やトイレ、自室の表示等、安全かつ解りやすい工夫を心掛けている。		